

伯耆町の

とつておき スポット!!

「植田正治写真美術館」という名前はよく耳にするけれど、その「植田正治」ってどんな人なの？こんな疑問をお持ちの方はいませんか？

美術館を紹介する前に、まずは施設名にもなっている、写真家・植田正治について紹介します。

植田正治について

植田正治さんは一九一三年、西伯郡境町（現境港市）に生まれました。

一九三二年に上京、オリエンタル写真学校入学後、一九五四年に第二回二科賞を受賞。一九六〇年にはニューヨーク近代美術館出展、また、一九八九年には日本写真協会功労賞を受賞するなど、国内外で写真家としてのさまざまな功績を残しました。

残念ながら二〇〇〇年七月四日、享年八八歳で亡くなりましたが、植田正治さんの死

後も作品の魅力は失われることなく、現在も展覧会が開催されています。

山陰の空・地平線・そして砂丘を背景として、被写体をまるでオブジェのように配置した植田正治さんの演出写真は、写真誕生の地フランスで日本語表記そのままにCOPY ROOM（植田調）という言葉で広く紹介されています。もちろん、植田正治さんの作品はこのような作品ばかりではありません。七〇年近くに及ぶ作業活動を通して、我々に常に斬新で多彩なイメージを提示しています。



植田正治氏

伯耆町に住んでいるけど、町内にある施設について詳しく知らない、行ってみたいけど場所がわからない。このコーナーは、そんな悩みをお持ちの方に町内の施設を紹介しています！

第三回目の今回は、七月十六日から始まる「HOMAGE展」（詳細は裏表紙をご覧ください）が話題の「植田正治写真美術館」をご紹介します！

美術館の特徴

植田正治写真美術館は展示されている作品ばかりでなく、その館内から眺めることのできる景色、また建物自体にも特筆すべきものがあります。

この美術館は建築家・高松伸氏によって設計されました。大山が「伯耆富士」の形で望める周囲の景観を取り込んだ建物自体、まさに巨大なアート作品を彷彿とさせます。

また、館内にはカメラの内部に在るような感覚が体験できる映像展示室が設けられています。

室内では、植田正治さんのプロフィールや活躍、理念を紹介するフィルムが二百インチ（約二五〇センチ×四五〇センチ）の高画質大画面で一通り流された後、大山の今の雄姿が室内に逆さの状態で見られる。アルタイムに映し出されます。

その撮影に使用されているのが、「超大型カメラオブス



館内から眺めた大山

キュラ用レンズ」です。総重量六二五キログラム（ガラスのみで約二四五キログラム）、全長七三、二センチを誇る世界最大のカメラレンズです。このレンズと同じものが、部屋のエントランス部分に展示されています。その大きさを実際に目にすれば、改めてその巨大さに驚かされるはず

です。みなさんぜひ、この魅力たっぷりの植田正治写真美術館へお越しください！

植田正治写真美術館

開館時間

- ・午前九時から午後五時まで
- ・入館は閉館の三〇分前まで
- ・休館日
- ・毎週火曜日
- ・（祝祭日の場合は翌日）
- ・十二月二十九日、一月一日

展示替期間中

- ・入館料（通常展開催時）
- ・一般 八百円（七百円）
- ・高校大学生 五百円（四百円）
- ・小中学生 三百円（二百円）
- ・（ ）内は二〇名以上の団体料金です。

問い合わせ先

☎三九一八〇〇〇

「HOMAGE展」開催中は無休です。また、入館料は特別料金になります。詳しくは裏表紙の記事をご覧ください。

